

他県の選考方法の例

【青森県】

- ・学力を重視しながら、受験生の多様な力が評価されるよう、一般選抜枠と、特別選抜枠を同日に実施。

	一般選抜枠	特色化選抜枠
募集人員	前期選抜募集人員の 50 ～ 90 % の範囲内で各高校が定める	前期選抜募集人員の 10 % ～ 50 % の範囲内で各高校が定める
選抜方法	学力検査(5教科)の得点(500点)、調査書の評定の総点(135点)を基本とし、学校によっては、面接等を選抜資料に加え総合的に判定	学力検査(5教科)の得点(傾斜配点可)、調査書の評定(傾斜配点可)、の総点を基本とし、学校によっては特別活動や部活動を点数化した得点、面接、実技検査などを選抜資料に加え総合的に判定

(例) ある高校での合格者決定の流れ (特色化選抜枠の合否判定を先に行う高校の場合)

前期選抜受験者	特色化選抜枠	一般選抜枠	前期選抜
Aさん	→ 合格	→ 合格	→ 合格
Bさん	→ 枠に入らず	→ 合格	→ 合格
Cさん	→ 枠に入らず	→ 枠に入らず	→ 不合格

【宮城県】

- ・調査書点と学力検査点の相関図表を基に、評定以外の調査書の記載事項も用いて総合的に選抜。
- ・選抜は、2段階に分けて行う。
 - <第1段階>
上位の者から募集人数の一定割合(領域A)に入っている受験生について選抜。
 - <第2段階>
残りの募集人数<領域B>について、調査書の記載事項(「評定」以外の特別活動の記録などの資料)も用いて総合的に選抜。

$$\begin{aligned} & \text{※調査書点} = 3 \text{年間の} 5 \text{教科} [\text{国} \cdot \text{社} \cdot \text{数} \cdot \text{理} \cdot \text{英}] \text{の評定の合計} \\ & \quad + 5 \text{教科以外の評定の合計} \times 2 \end{aligned}$$

【山形県】

- ・学力の総合段階及び調査書中の記載事項を主な資料として選抜。
- ・調査書中の各評定と学力検査の成績の比率は、高等学校長が定めることができる。
- ・学力の総合段階は、調査書中の第3学年の各教科（選択科目を除く）の評定合計と、学力検査の成績をそれぞれ500点満点に換算し、高等学校長が定めた調査書中の各教科の評定と学力検査の成績の比率に応じて算出した調査書点と学力検査の和を合計得点とする。

<例:調査書の評定と学力検査の成績の比率が4：6の場合>

調査書評定合計 a と学力検査の成績 b を 500 点満点に換算し、それぞれの比率が 4：6 の場合の調査書点 (A 点) と学力検査点 (B 点) の算出方法は、次のとおり。

1 調査書点 $A = (a/45) \times 0.4$

2 学力検査点

(1) 傾斜配点を行わない場合 $B = b \times 0.6$

(2) 傾斜配点を行う場合

ア 実施教科が1教科の場合 $B = (b/550) \times 0.6$

イ 実施教科が2教科の場合 $B = (b/600) \times 0.6$

このとき個人の合計得点 (T 点) は $A + B = T$ となる。

- ・受検者の合計得点について、分布が連続しているとみなされる部分の最高と最低の間を等間隔で5段階に分ける。調査書の他の記録についても参考に選抜。

【福島県】

- ・選抜は、次の(1)、(2)により行い、判定にあたっては、調査書の「各教科の学習の記録」、「総合的な学習の時間の記録」、「特別活動等の記録」、「長所・特技等の記録」の優れた評価、記述に配慮するとともに、「出欠の記録」を考慮する。

(1) 学力検査と調査書の成績の比重を同等とする場合

① 学力検査と調査書の成績のいずれも定員内にある者で、調査書の記載事項及び面接の結果に特に問題のない者を合格とする。

② その他の者については、学力検査の成績と調査書の記載事項及び面接の結果を十分に精査し、総合的に判定する。

(例)

順位	学力検査	調査書
1	101	101
2	103	108
3	104	103
4	105	106
定員 5 人	5	108
	6	109
	7	104
	8	106
	9	102
	10	102
	11	105
	12	107
	13	107

(101～109は受検番号)

- ・ 101、103、108は、学力検査、調査書とも定員内にあり合格
- ・ 104、105、106、109は、学力検査、調査書、面接を精査し総合的に判定
- ・ 102、107は不合格

(2) 学力検査と調査書の比重を変える場合

学力検査と調査書の成績のいずれか一方に高等学校長が設定した数値を掛けて、両者を加算した成績と、調査書の記載事項及び面接の結果を十分に精査して、総合的に判定する。